

えひめけんしゅわげんご ふきゅうおよ しょう とくせい おう い し そつう
愛媛県手話言語の普及及び障がいの特性に応じた意思疎通
しゅだん りよう そくしん かん じょうれい あん こっし ないよう
手段の利用の促進に関する条例(案)骨子の内容

こっし
(骨子)

えひめけんしゅわげんご ふきゅうおよ しょう とくせい おう い し そつう
愛媛県手話言語の普及及び障がいの特性に応じた意思疎通
しゅだん りよう そくしん かん じょうれい あん せいてい はいけい
手段の利用の促進に関する条例(案)制定の背景

○ けんみんひとりひとりが、しょう う む じんかく
県民一人一人が、障がいの有無にかかわらず、人格と
こ せい そんちよう あ きょうせい ち い きしゃかい じつげん
個性を尊重し合いながら共生する地域社会を実現するこ
とは、わたし えひめけんみんすべ ねが
とは、私たち愛媛県民全ての願いである。

○ しゅわ おんせいげんご こと ご い ぶんぼう たいけい ゆう
手話は、音声言語とは異なる語彙・文法の体系を有し、
て ゆび からだ うご ひょうじょう しかくてき ひょうげん
手・指・体の動きや表情などにより、視覚的に表現される
どくじ げんご しょうがいしゃきほんほう げんご しゅわ ふく
独自の言語であり、障害者基本法にも、言語に手話が含ま
れることがめいきに明記されている。

○ か こ ながねん げんご みと げんご
過去には、長年にわたり言語として認められず、言語とし
て しゅわ まな しょう かんきょう じゅうぶん ととの
ての手話を学び、使用する環境が十分に整えられてこな
かった れきし しゅわ げんご けんみん
かった歴史があり、手話が言語であることについての県民

の理解が必ずしも十分であるとは言えない。

○ 意思疎通手段を円滑に利用できることは、障がい者が地域社会における活動に参加するために欠かせないものであり、日常生活を営む上で、あるいは災害等が発生した際に、障がいの特性に応じた意思疎通手段を確保することが喫緊の課題となっている。

○ 県民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するためには、手話が独自の語彙・文法の体系を有する言語であることを普及するとともに、障がい者がそれぞれの障がいの特性に応じた意思疎通手段を用いて、円滑に意思疎通を行うことができる環境等を整備することが不可欠である。

○ このため、議員有志による情報コミュニケーション等に関する条例検討プロジェクトチームでは、手話が言語であることを普及するとともに、障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用の促進を図ることで、障がい者がその意欲と能力に応じて活躍できるとともに、障がいの有無にかか

わらず、^{すべ}全ての^{けんみん}県民が^{そうご}相互に^{じんかく}人格と^{こせい}個性を^{そんちょう}尊重し^あ合いなが
ら^{きょうせい}共生する^{ちいきしゃかい}地域社会を実現^{じつげん}するため、^{じょうれい}条例の^{せいてい}制定に^む向けて
と^く取り組んでいるところである。

だい もくてき 第1 目的

この^{じょうれい}条例は、^{しゅわげんご}手話言語の^{ふきゅう}普及・^{しょう}障がいの^{とくせい}特性に^{おう}応じた^{いし}意思
^{そつうしゅだん}疎通手段の^{りよう}利用の^{そくしん}促進に^{かん}関し、

- ^{きほんりねん}基本理念を^{さだ}定め、
- ^{けん}県の^{せきむ}責務と^{かんけいしゃ}関係者や^{けんみん}県民の^{やくわり}役割について^{あき}明らかにする
とともに、
- ^{きほん}基本となる^{じこう}事項を^{さだ}定めることにより、
^{しさく}施策を^{そうごうてき}総合的かつ^{けいかくてき}計画的に^{すいしん}推進し、^{しょう}障がい者が^{しゃ}その^{いよく}意欲
^{のうりよく}と^{おう}能力に^{かつやく}応じて^{しょう}活躍できるとともに、^{しょう}障がいの^{うむ}有無にかか
わらず、^{すべ}全ての^{けんみん}県民が^{そうご}相互に^{じんかく}人格と^{こせい}個性を^{そんちょう}尊重し^あ合いながら
^{きょうせい}共生する^{ちいきしゃかい}地域社会の実現に^{きよ}寄与することを^{もくてき}目的とする。

だい ていぎ 第2 定義

- ^{しゅわげんご}手話言語の^{ふきゅう}普及 ^{しゅわ}手話が^{げんご}言語の^{ひと}一つであることを^{ふきゅう}普及す
ることをいう。
- ^{しょう}障がい ^{しんたいしょうがい}身体障害、^{ちてきしょうがい}知的障害、^{せいしんしょうがい}精神障害(^{はったつしょうがい}発達障害を^{ふく}含

む。)、難病^{なんびょう}を原因^{げんいん}とする障害^{しょうがいとう}等の心身^{しんしん}の機能^{きののう}の障害^{しょうがい}をいう。

○障がい者^{しょう} 障がい^{しゃ}があり、その障がい^{しょう}と社会的障壁^{しゃかいてきしょうへき}により継続的^{けいぞくてき}に日常生活^{にちじょうせいかつ}や社会生活^{しゃかいせいかつ}に相当^{そうとう}な制限^{せいげん}を受ける状態^うにある者^{じょうたい}をいう。

○意思疎通手段^{い し そつうしゅだん} 手話^{しゅわ}、要約筆記^{ようやくひっき}、拡大文字^{かくだい も じ}、点字^{てん じ}、点訳^{てんやく}、音訳^{おんやく}、筆談^{ひつだん}、代読^{だいどく}、代筆^{だいひつ}、指点字^{ゆび てん じ}、触手話^{しょくしゅわ}、字幕^{じまく}、実物^{じつぶつ}や絵図^{え ず}の提示^{てい じ}、人工喉頭発声^{じんこうこうとうはっせい}、平易^{へい い}な表現^{ひょうげん}、重度障害者用意思伝^{じゅうどしょうがいしやよう い し でん}達装置等障がい者が他者との意思疎通を図るための手段^{たつそう ち とうしょう}をいう。

だい 3 きほんりねん 第3 基本理念

○手話言語^{しゅわげんご}の普及^{ふきゅう}・障がい^{しょう}の特性^{とくせい}に応じた意思疎通手段^{お う い し そつうしゅだん}の利用^{りよう}の促進^{そくしん}は、障がい^{しょう}の有無^{う む}にかかわらず、全^{すべ}ての県民^{けんみん}が相互^{そうご}に人格^{じんかく}と個性^{こせい}を尊重^{そんちよう}し合うことが重要^{あ じゅうよう}であるとの認識^{にんしき}の下^{もと}に行われなければならない。

○手話言語^{しゅわげんご}の普及^{ふきゅう}は、手話^{しゅわ}が独自の語彙^{どくじ}・文法^{ご い ぶんぽう}の体系^{たいけい}を有^{ゆう}する言語^{げんご}であり、手話^{しゅわ}を使用して日常生活^{にちじょうせいかつ}や社会生活^{しゃかいせいかつ}を営^{いとな}む者^{もの}が長年^{ながねん}にわたり受け継^{う つ}いできた文化的所産^{ぶんかてきしょさん}であるとの認識^{にんしき}の下^{もと}に行われなければならない。

○ 障がい^{しょうがい}の特性^{とくせい}に応じた意思疎通手段^{いしそつうしゅだん}の利用^{りよう}の促進^{そくしん}は、
次^{つぎ}に掲げる事項^{かか}を基本^{きほん}として行^{おこな}われなければならない。

・ 障がい者^{しょうがいしゃ}が、意思疎通手段^{いしそつうしゅだん}についての選択^{せんたく}の機会^{きかい}が
確保^{かくほ}され、可能^{かのう}な限り、その障がい^{しょうがい}の特性^{とくせい}に応じ必要^{ひつよう}か
つ有効^{ゆうこう}な手段^{しゅだん}を選択^{せんたく}することができるようにすること。

・ 全ての障がい者^{すべししょうがいしゃ}が、その日常生活^{にちじょうせいかつ}や社会生活^{しゃかいせいかつ}を営^{いとな}ん
でいる地域^{ちいき}にかかわらず、その障がい^{しょうがい}の特性^{とくせい}に応じた
意思疎通手段^{いしそつうしゅだん}を利用^{りよう}することにより等^{ひと}しくその必要^{ひつよう}とす
る情報^{じょうほう}を取得^{しゅとく}し、利用^{りよう}し、円滑^{えんかつ}な意思疎通^{いしそつう}を図^{はか}ることが
できるようにすること。

・ 障がい者^{しょうがいしゃ}が取得^{しゅとく}する情報^{じょうほう}について、可能^{かのう}な限り、障がい^{しょうがい}
者^{しゃ}でない者^{もの}が取得^{しゅとく}することができる情報^{じょうほう}と同一^{どういつ}の
内容^{ないよう}の情報^{じょうほう}を障がい者^{しょうがいしゃ}でない者^{もの}と同一^{どういつ}の時点^{じてん}におい
て取得^{しゅとく}することができるようにすること。

・ ICT技術^{ぎじゅつ}の活用^{かつよう}を推進^{すいしん}し、障がい者^{しょうがいしゃ}が、可能^{かのう}な限り、そ
の必要^{ひつよう}とする情報^{じょうほう}を十分^{じゅうぶん}に取得^{しゅとく}し、利用^{りよう}し、円滑^{えんかつ}に意思
疎通^{そつう}を図^{はか}ることができるようにすること。

だい かんけいしゃ せきむ やくわり 第4 関係者の責務・役割

けん せきむとう 1 県の責務等

○ 基本理念^{きほんりねん}にのっとり、手話言語^{しゅわげんご}の普及^{ふきゅう}・障がい^{しょうがい}の特性^{とくせい}に応じた意思疎通手段^{おういしそつうしゅだん}の利用^{りよう}の促進^{そくしん}に関する施策^{かんしさく}を総合的に策定^{そうごうてき}し、実施^{さくてい}する。

○ 施策^{しさく}が効率的かつ効果的に推進^{こうりつてき}されるよう、市町、事業者等^{こうかてき}の関係機関^{すいしん}との連携^{しちよう}に努める。

○ 施策^{しさく}を講ずるに当たっては、障がい者^{こう}、その保護者等^あの関係者の意見^{しょう}を聴き、その意見を尊重^{しゃ}するよう努める。

2 県民^{けんみん}の役割^{やくわり}

○ 基本理念^{きほんりねん}にのっとり、意思疎通手段^{いしそつうしゅだん}に対する理解^{たい}を深めるとともに、県が^{けん}行う手話言語^{おこな}の普及^{しゅわげんご}・障がい^{ふきゅう}の特性^{しょう}に応じた意思疎通手段^{おういしそつうしゅだん}の利用^{りよう}の促進^{そくしん}に関する施策^{かんしさく}に協力^{きょうりよく}するよう努める。

3 事業者^{じぎょうしゃ}の役割^{やくわり}

○ 事業活動^{じぎょうかつどう}を行うに当たっては、基本理念^{おこな}にのっとり、障がい者^あがその障がい^{きほんりねん}の特性^{しょう}に応じた意思疎通手段^{しょう}を利用^{しや}することにより必要とする情報^{しょう}を取得^{とくせい}し、利用^{おう}し、円滑な意思疎通^{いしそつうしゅだん}を図ることができるように努めるとともに、県が^{けん}実施^{じっし}する手話言語^{しゅわげんご}の普及^{ふきゅう}・障がい^{しょう}の特性^{とくせい}に応じた意思疎通手段^{おういしそつうしゅだん}の利用^{りよう}の促進^{そくしん}に関する施策^{かんしさく}に

きょうりよく つと
協力するよう努める。

だい とどう ふけんしょうがいしゃけいかく かんけい 第5 都道府県障害者計画との関係

- けん は、とどう ふけんしょうがいしゃけいかく さくてい へんこう さい しゅわ
言語の普及・障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用
げんご ふきゅう しょう とくせい おう い し そつうしゅだん りよう
の促進に関する基本的な事項を定めるものとする。
そくしん かん きほんてき じこう さだ

だい けいはつおよ がくしゅうとう きかい かくほう 第6 啓発及び学習等の機会の確保等

- けん は、しちょうとう かんけいきかん れんけい しゅわげんご ふきゅう しょう
がいの特性に応じた意思疎通手段の利用の促進に関する
とくせい おう い し そつうしゅだん りよう そくしん かん
施策の推進に関して、県民が理解を深めることができ
し さく すいしん かん けんみん りかい ふか
るよう啓発に努める。
けいはつ つと
- けん は、しょう しゃ かぞく た けんみん たい
意思疎通手段を学ぶための機会の確保や環境の整備に
い し そつうしゅだん まな きかい かくほ かんきょう せいび
つと
努める。

だい い し そつうしえんしゃとう じんざいかくほう 第7 意思疎通支援者等の人材確保等

- けん は、しょう しゃ じりつ にちじょうせいかつ しゃかいせいかつ いとな
むために必要な分野において、障がい者がその障がい
ひつよう ぶんや しょう しゃ しょう
の特性に応じた意思疎通手段を利用することによりその
とくせい おう い し そつうしゅだん りよう

必要とする情報を取得し、利用し、円滑な意思疎通を図
ることができるようにするため、市町等の関係機関と
連携して、意思疎通支援者やその指導者の確保・養成・
資質の向上を図る。

第8 相談支援の体制の整備等

- 県は、障がい者によるその障がいの特性に応じた
意思疎通手段の利用に関し、市町等の関係機関と連携し
て、相談支援の体制の整備・拡充に努める。

第9 学校教育における教育環境の整備のための支援

- 県は、学校教育の分野において、障がいの特性に応じ
た意思疎通手段の利用を必要とする者に対する教育
環境の整備のための取組を進めるため、市町、障がい
者、意思疎通支援者、関係団体、事業者等の関係者と
連携を図りながら、学校に対する情報の提供、技術的
な助言等の必要な支援を行うよう努める。

第10 情報の提供

- 県は、障がい者が県政に関する情報を速やかに取得

することができるよう、その障がいの特性に応じた意思疎通手段を用いた情報の提供に努める。

第11 事業者への支援

- 県は、事業者が行う次に掲げる取組に対して必要な支援を行うよう努める。
- ・ 障がい者によるその障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用のための取組
- ・ 意思疎通手段の利用を必要とする障がい者が働きやすい環境を整備するための取組

第12 意思疎通手段に関する情報収集及び活用

- 県は、関係機関と連携して、障がい者によるその障がいの特性に応じた意思疎通手段の利用に資するICT機器やサービスに関する情報収集を行い、県の施策に活用するとともに、障がい者や介助者、県民に対する情報提供、入手の支援等の必要な施策を講ずる。

第13 災害時等における情報伝達

- 県は、災害時等において、障がい者がその障がいの

とくせい おう い し そつうしゅだん りよう ひつよう
特性に応じた意思疎通手段を利用することにより必要な
じょうほう じんそく かくじつ しゅとく りよう えんかつ い し そつう
情報を迅速かつ確実に取得し、利用し、円滑な意思疎通
はか ひつよう し さく こう
を図ることができるよう、必要な施策を講ずる。

- 県は、障がい者の生命や身体に影響を及ぼすおそれ
のある状況において、緊急時の意思疎通を円滑かつ
かくじつ おこな たよう しゅだん
確実に行うことができるようにするため、多様な手段に
よる緊急の通報の仕組みの整備等の必要な施策を講ず
る。

だい しゅわぶんか ほぞん けいしやうおよ はってん 第14 手話文化の保存、継承及び発展

- 県は、地域固有の手話をはじめとする手話文化(手話や
しゅわ ぶんがく うた えんげき でんとうげいのう えんげいとう ぶんかてき
手話による文学、歌、演劇、伝統芸能、演芸等の文化的
しょさん ほぞん けいしやう はってん はか ひつよう し さく こう
所産)の保存・継承・発展が図られるよう必要な施策を講
ずる。

だい ざいせいじやう そ ち 第15 財政上の措置

- 県は、手話言語の普及・障がいの特性に応じた意思
そつうしゅだん りよう そくしん かん し さく じっし
疎通手段の利用の促進に関する施策を実施するため、
ひつよう ざいせいじやう そ ち こう つと
必要な財政上の措置を講ずるよう努める。